令和３年度　工謳祭について（№8）

７月３日土曜日、静岡県熱海市で土石流が発生し、今もって多くの方が行方不明になっています。自然災害の脅威を痛感するとともに、多くの教訓を与えた災害ではないかと思っています。亡くなられた方々の御冥福をお祈りするとともに、一日も早く行方不明者が無事発見されることを心より願っております。

これから「工謳祭」について話をします。

ちょうど１年前の７月、生徒会が「工謳祭実施についてのアンケート調査」を実施してくれました。その結果、「縮小開催ではやりたくない。開催するのであれば、通常で実施したい」という意見が過半数を占めました。その生徒の意見を尊重し、令和２年度の「工謳祭」の開催はコロナ渦では難しいと考え、令和３年度に延期することとしました。しかし、１年経った今も、感染者数が増えたり減ったりを繰り返すだけで、コロナが収束する気配は全く見られない状況にあります。その都度、緊急事態宣言が発令されたり、まん延防止等特別措置などの対策を講じているのが現状です。部活動の各種大会も、最大限の注意を払って大会を運営しています。例えば無観客での大会としたり、部員の中からたった一人の感染者が出たならば当該生徒のみならず、チームも棄権するというかなり厳しい対応を取っている部活動もあります。今、国を挙げてワクチン接種を進めていますが、６５歳以上の高齢者でも接種率は、わずか１～２割程度に留まっています。

「工謳祭」を開催するか否かの判断基準の一つは、安全で安心なものでなければならないと言うことです。現状では不特定多数の人が来校する、一般解放した通常開催の「工謳祭」は難しいと考えます。また、飲食を伴う場所での感染拡大が指摘されている中で、飲食を許可しての文化祭は難しいということです。飲食を制限し、飲食を無しにした「工謳祭」を考えたときに、出し物がかなり制限されてしまうということです。

もう少し先に行ってから結論を出そうと考えていましたが、準備の関係もあるので結論を皆さんに伝えます。断腸の思いですが、昨年度のアンケート結果を踏まえ、皆さんが希望している「通常開催の工謳祭は中止」、一般開放なし、飲食関係もなしのいわゆる「縮小開催の工謳祭もなし」とします。

なお、昨年度は「工謳祭」に替わる行事として「球技大会」を実施しました。今年度、「工謳祭」に替わる行事については、極力実施の方向で考えたいと思いますが、最終的には、皆さんの安全・安心を最優先し、警戒度や感染状況等を勘案して判断したいと考えています。

令和３年７月５日（月）
群馬県立桐生工業高等学校
校　長　　藤　生　卓　也